

言論の自由・表現の自由・報道の自由・・・捏造の自由、ン？

自民党の若手議員たちが、オフレコで好きなことを語った。オフレコだから、記事にはしてはいけない、という暗黙の協定がある。百田尚樹氏があらぬことを言ったというが、この人はこんなことばかり言っている人だから、どうというほどの影響力もない。沖縄の新聞は、2 つとも左翼に偏っているから、つぶしてしまえ！などといった実現性のない話である。現実には、左翼にかたよっているのだが、いかに「言論の自由」といっても、おのずからなる限度というものがあるだろう。若手議員は、もう少し具体的で、新聞広告を減らすように働きかけよう！・・・あくまでオフレコである。

これに対し、あらゆるマスメディアは猛反対である。小生も、言論弾圧には大反対である。しかし、いくら自由といっても、この線を超えたらあかんやろ、というラインはあるはずである。今、朝日など、限度を知らないとしか表現できない内容である。朝日新聞が「言論弾圧」だなどと、よくまあ、恥ずかしげもなく大騒ぎするなあ！ もともと朝日などが、捏造やら改竄・意図的な誤解などを平気でするから、全体が責められることになっている。

9.11 のとき、特攻隊と同じだと断じたのも朝日。どこが一緒や。戦争をしている敵に対する攻撃と、ごく普通に生活している無辜の民に対する無差別の攻撃と同列に論じるなど、理解力が悪いのではなく、意図的にこじつけている。朝日の捏造、改竄、わざとの誤報など枚挙に暇がない。朝日に「言論の自由」などと軽々に言われたくない。

いま、江藤淳氏の「閉ざされた言語空間」を読んでいるところです。読み終わったら、まとめますが、とりあえずの第一報です。

戦時中、朝日などは、軍による検閲があったなどとのたまうが、国民に煽られてはしゃいでいる自分や、自らが煽ったことを忘れている。

2015.07.20.